

事業の実績	<p>福祉リビングコースにて教科「福祉」の教育を行っている熊本中央高等学校との高大連携事業を本年度も実施した。高校2年生を対象に、キャリア教育の一環としての3回の授業実践を行った。</p> <p>授業実践は、過去2回と同様に、教科「福祉」における科目「社会福祉基礎」の単元「生活と福祉」項目「人の一生と社会福祉」において、自分の将来像を考える活動であった。</p> <p>また、昨年度、授業実践に参加した同コース3年の生徒たちにも個別追跡調査を行ない、縦断的分析を行った。</p> <p>なお、今年度は、昨年度の高校側からの提案（生徒とより多くの大学生が交流し、合同で行う取り組みの追加検討）を踏まえ、3回すべての授業実践に参加するだけでなく、山口ゼミの学生が実施するオレンジリボン運動への生徒参加と、熊本中央高校福祉リビングコースが実施している「中央のえんがわ」への大学生参加も行った。</p>
具体的な成果	<p>昨年度、高大連携事業に参加した同コース3年生生徒ならびに、本年度授業を行う2年生担当の生徒たちと接する機会を設けたことにより、大学生においては昨年度よりも、普段、あまり接する機会の少ない高校生へ向けてのプレゼンテーションを作成・発表するだけでなく、生徒たちの作業にも積極的に関わることができ、幅広く専門的知識を発揮できるフィールドを体験することができ、有意義な取り組みであった。</p> <p>また、昨年度2年生であった同コース3年生生徒たちにも個別追跡調査を行うことができた。過去2年と比較した、縦断的な調査により、本事業による生徒たちの進路選択への影響をさらに探ることができたことは重要な成果であった。特に、大学進学選択を行う上で、本事業が本学進学のきっかけとなっていたことは大きな成果であったといえよう。</p> <p>今後、大学にとっては福祉科だけでなく、他教科においても高等教育機関への進学を目指す選択を提示するためにも本事業のような連携した取り組みを行うことが必要であると考えられる。その際には、高大連携事業への大学生の参加が必要であろう。本年度まで継続的に行ってきた高大連携事業は、高校大学双方にとって、学生ならびに生徒の進路やキャリア形成について模索するための有意義な機会となっていたといえる。</p> <p>以下、高校の先生からいただいたコメントの一部を紹介する。</p> <p>「福祉科教育における高大連携事業を3年間実践させていただき、どの年度も生徒一人ひとりが自身の進路と真剣に向き合っている姿を見ることができた。また、同じ社会福祉を学ぶ大学生のプレゼンや大学生との会話を通して、生徒たちは自身の将来を身近に想像できていたと感じている。</p> <p>最後に、今年度、本校の福祉リビングコースを卒業し、貴学の社会福祉学部と商学部に進学予定の生徒たちは、福祉科教育における高大連携事業がきっかけになっていることから、これからも貴学の社会福祉学部との連携を深めていくことができたらと思っています。ありがとうございました。」</p>